

Narashino International Association



NIA SQUARE ナショナルスクエア

第29号

1995年3月1日発行

〈編集〉

習志野市国際交流協会

特 集

バラと国際交流

AIR MAIL 定期便

生ハムメロンで思うこと

誌 上 講 演

ボランティア英語通訳登録者研修会

語学交流講座

1995年度受講生募集

会 員 紹 介

こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ

N.I.A.活動報告

会員のつどい/もちつき大会

コ ラ ム

新・東西南北見聞録

Let'sチャレンジ

ユニセフ外国コイン募金/姉妹都市市民訪問団

ザ・英文クロスワードパズル



〈特集〉 バラが育てた国際交流

バラの新しい品種を作り出す「育種家」をご存じですか。今回は、育種の世界的権威である鈴木省三先生を、八千代市の京成バラ園芸に訪問。広い場内の一隅にある木造の研究室は、た

くさんの資料や「ローマ市主催バラ新品種国際コンクール」などの賞状でいっぱいです。バラの枝が窓辺をのぞき、冬のやわらかい日が差し込む研究室で、時間がゆっくりと流れました。



● 「…日本でもバラの新種を作ろう…。…それ以来、バラ一筋の人生…」と語る鈴木先生。

鈴木省三（すずきせいぞう）先生の横顔

大正2年(1912)東京小石川生まれ。これまでに数々の名花を作出。オール・アメリカ・ローズセレクション大賞をはじめ国際コンクールで多数受賞。わが国の草分けであると共に国際的な

名声を得て、バラの指導と交流のために世界中で活躍。現在京成バラ園芸株式会社役員。『ばらに贈る本』(婦人之友社)、『薔薇』(朝日新聞社)他共著書多数。

バラ作りの道へ

☆鈴木先生と習志野市とのご関係はだいぶ以前にさかのぼるそうですが。

鈴木 昭和29年か30年頃、谷津にバラ園を造るようにいわれ、昭和32年に完成させたのが旧谷津遊園のバラ園です。ですからもう40年も前のことです。

☆そもそも、先生がバラに興味を持たれるようになったきっかけは何でしたか。

鈴木 子供の頃、東京の小石川に住んでおり、私の両親は大の花好きでした。その中にバラもありました。当時バラは高貴な花として扱われ、子供心に特別な存在として映っていたのかもしれません。

☆幼少時代の家庭環境の影響が大きかったわけですね。

鈴木 それに時代もあるでしょう。私の育った大正時代は、今ほど豊かではなくても、何かロマンを求めるような、時代の空気がありました。

☆すると先生にとって、バラはロマンと深い関わりがある……

鈴木 私にとって戦争中のつらい時期もバラが希望でした。戦争が終わればバラを育てられる、と思うと心の励みになり

ました。

☆バラ作りといつても、新しい品種を作りだす育種家の道を選ばれたのは、どうしてですか。

鈴木 明治、大正の頃まで、バラは全て外国からの輸入品種だったのです。東京府立園芸学校に進んだ私は、育種遺伝学を学んでいました。ある時、仲間と話しているうちに、「われわれの力で日本でもバラの新種を作ろう」ということになった。若者の情熱みたいなものです。で、誰がやるんだ、ということになり、「言い出したのは鈴木だから、おまえがやれ」ということになった。それ以来、バラ一筋の人生を歩むことになりました。

☆バラは文字どおり、世界への水先案内になったわけですね。

はじめての海外体験—

☆ところで、最初に海外へ行かれたのは、やはり、バラの関係ですか。

鈴木 昭和33年頃でした。当時の川崎社長とアメリカ各地を1ヶ月半見てまわりました。それは、新種の輸入と育種の勉強のためです。羽田空港から出発する時、



●バラ園でご進講中の若き日の鈴木先生。

300名位の人が見送りに来てくれました。当時、飛行機で海外に旅立つことは、大変なことだったのです。ハワイまで行くのに、途中で空中給油をするのですが、あまり気持ちのいいものではなかった。

☆ハワイから西海岸へ。

鈴木 そうです。サンフランシスコに入り、そこから夜間飛行でシカゴに行きました。

☆アメリカの第一印象はどうでしたか。

鈴木 「広いな」「大きいな」という驚きでした。空から見ていると、そこら中に開墾していない土地が広がっている。日本にあれば、すぐ耕されてしまいそうな土地です。アメリカの人と会った時、「土地がもったいないから、開墾してじゃがいもでも植えたら」と聞いたら「もう十分にあるので作ってもムダになる」と言われ、日米の豊かさの違いにビックリさせられました。

☆言葉の問題はどうでしたか。

鈴木 手まね、口まねで通しましたよ。実は社長から「君の英語はアメリカでは通じないのかね」と言われました。社長は、私が会社で英文の手紙を海外とやりとりしているのを知っていましたので、会話も大丈夫、と思っておられたらしい。

☆取り引きはどのようにされたのですか。

鈴木 ともかく相手の希望内容をそっくり書面で受け取ってホテルに持ち帰り、航空便のやりとりを繰り返して、どうにか契約にこぎつけました。



●20年の歳月を要した名花・芳純

バラはインターナショナル——

☆最初の渡米で言葉の必要性を痛感なさったということですか。

鈴木 バラをやるには「言葉ができなければダメだ」と思いました。バラはインターナショナルなものなんです。というのは、バラ作りは世界で認められなければならないんです。従って、国際的な品評会やコンテストに出品しますので、世界中の育種家と集まる機会も多くなる。ドイツではドイツ語で、フランスではフランス語でというように、その国のお国言葉で簡単な会話が交わせるように心がけることが仲間を広げる上で大切です。そのためもあるのでしょうか、一時は、新年になると百枚以上のカードが海外から届き、返事を出すのが大変でした。

☆言葉の勉強はどのようにされましたか。

鈴木 米国出張から帰った後、習いました。こここの育種場で昼間働いてから、夜、東京の三軒茶屋まで丸2年通いました。夕食をさっと済ませ、作業服のまま出かけて行きました。それでも教室に着くのは9時半過ぎです。それから11時半まで勉強して、電車で帰って来るのです。その先生は、内村鑑三先生のお弟子さんだったというお婆さんでした。とても厳

救急指定・労災指定 医療法人 津田沼中央病院

診療科目／内科・外科・整形外科・脳神経外科・小児科・耳鼻咽喉科・皮膚科・泌尿器科・人間ドック

診療時間／月・水・金 午前9:00～午後1:00 午後2:00～7:00
火・木・土 午前9:00～午後1:00 午後2:00～5:30
休診日 日曜日・祭日（但し、急患は除く）

〒275 習志野市谷津1丁目9番17号

☎0474(76)5111(代)

※JR津田沼駅歩7分
京成津田沼駅歩8分

あらゆる旅を
トータルにプロデュース
JTB津田沼支店

個人・グループ
国内旅行

個人・グループ
海外旅行

国内・海外団体旅行

0474(76)9264

0474(79)5685

0474(76)9515

——土曜・日曜・祝日も営業——

午前10時30分から午後6時30分まで営業いたします。

定休日は毎週火曜日及び5月3・4・5日

JTB

日本交通公社

しいスパルタ教育でした。

☆バラを通じて、各国のお国柄の違いをお感じになりましたか。

鈴木 バラの好みといった点でみると、イギリスは「形」です。仕事の仕方は、「step by step」で堅実、格式張っているともいえます。フランスは「色」、それもパステルカラーのような「中間色」を好みます。対照的なのがアメリカです。真っ赤とか真っ黄色とかの原色好みです。パステルカラーはダメです。理解しません。

☆日本はどうでしょう。

鈴木 日本は「何でもあります」です。クリスマスの後、お正月に神社仏閣を詣でると共通した受容性のようなものでしょうか。

話は少し違いますが、ニュージーランドには良い本が多いですね。夕方7時にはパブ(pub)も閉店するお国柄ですが、自宅でゆっくりとした時間を愉しむ文化を感じさせられました。

バラを学ぶ、バラに学ぶ――

☆海外からの方をご自宅にお泊めになることもありますか。



●イギリスにて、育種家のジャック・ハーネスさんと

鈴木 私は、海外の友人や知人を「泊めるべき」だと思います。日本では「狭い」とか「言葉に自信がない」という理由で泊めたがらないと聞きます。日本に興味のある人は、「タタミ」の上に寝ることが一種の憧れなんですよ。私は彼等と付き合う時に「ざくばらんでも何も隠さない」ようにしています。アメリカ人はオープンですね。育種の研究でも、全て見せてくれます。イギリス人はそうはいきません。まあ、人によるのでしょうか。

☆ところで、日本で初めてだったバラの育種にどのように取り組まれたのですか。

鈴木 ともかく、日本に先達がいませんでしたから、最初は外国の本を取り寄せて学びました。その後、外国で先生に学ぶ機会がありました、「ああしろ、こうしろ」とは教えてくれませんでした。実際に見て、覚えたんです。

☆本日のお話からバラの育種を志す若者が生まれたら素晴らしいですね。

ところで、バラの育種を専門とする教育機関はありますか。

鈴木 バラ専門ではありませんが、世界的に有名なところでは、イギリスのロイヤル・ホーティカルチュアル・ソサイエティがあります。ここには世界中から学生が集まり、1年間の実習作業と講義を受けます。

☆世界的なバラの育種家になられた今、これまで振り返つてどう思われますか。

鈴木 絵も音楽も好きですが、それでも私にはバラしかなかったんです。今、私



●鈴木先生は笑顔の人です。

の手元には、これまでに撮影した5,000枚の写真があります。日本をはじめ世界中の方と面識を得ることもできました。これも、バラのお陰です。やはり、ヒューマニズムというのは、花や音楽から生まれるのではないかと思いますね。

☆長時間、本当にありがとうございました。いつまでも、お健やかにご活躍ください。

〈ご協力いただいた方々〉

佐藤捨吉様(四街道市在住)と京成バラ園芸株園芸部・伊藤昭郎次長には取材調整の労を、又、同社研究室・野村和子様には取材時と写真収集の面でお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

〈取材・編集〉

インタビュー及び編集：小森雅夫、

写真撮影：諏訪晴信、取材補助：井上薰

(以上本紙編集委員) 取材日：1995年1月27日

Mr. Seizo Suzuki who is a plant breeder of roses and has got many prizes at international contests, talked about his life with roses.

"In the Meiji and the Taisho era, there were only roses of imported species. So I wanted to breed Japanese one. I have been constant in my devotion to breeding and, through roses, I have made friends all over the world."

婦人ブラウス縫製
——裁断から仕上まで——

神谷紡織(株)

習志野市東習志野8-9-8

TEL 0474-79-3333

代々木ゼミナール中学グリーン

新学期 受付中 春期講習 受付中

学期・講習とも総合コース、単科ゼミを多数設置 / 選抜クラス・申込順クラスあり

4/30(日) 第1回 中1・2・3学力判定テスト

カリキュラム対応・不得意分野攻略 / 学力達成度判定

▶お問い合わせは、代々木ゼミナール津田沼校中学グリーンへ
〒275 習志野市谷津7-7-6 ☎0474-77-8815(大代)

誌上講演／ボランティア英語通訳登録者研修会／イメリダ・近藤さん

「——どんなに疲れていようとも、目の前に助けを必要としている人がいれば、“NO”とは言えません。——患者の病気が治れば、自分で嬉しくなりますし、達成感も得られます。お金などの物質的な充足だけが幸せではありません。精神的な充実もあってこそ、幸せであるのだと思います。だから、ボランティア活動をするのです。」——昨年10月22日(土)、教育文化部会主催「ボランティア英語通訳者研修会」が行われ、当協会のボランティア通訳者でもあるイメリダ・近藤さんに英語で講演していただきました。母国フィリピンで医師をしていた頃の経験を生かし、日本にいる外国人のために医療語学ボランティア活動

をしたり、ピナツボ火山が噴火した時には、現地へ向かい、ボランティアとして被災者のために医療活動をしてきました。ボランティア活動を通して得たことや、これらの活動をするようになった経緯を、分かりやすく、ユーモアも交えて話していただきました。

今回は、イメリダさんの講演内容を抜粋でご紹介します。



Joining Medical Services as a Language Volunteer

I arrived here in Japan, March 5, 1990. I married a Japanese. Before I came to Japan, I was a resident physician. Just after my resident training, I have to come and enjoy with my husband. So that's why the story goes like a drama. I have to give up my own profession, my career for my husband. From a very active and sociable life, I ended up being an ordinary house wife. The first few months was really difficult for me. Adjustment period. I don't know how to speak Japanese. I want to communicate with the neighbours around. I smiled at them. But some people just don't smile especially to a stranger. I said "Why?" I was expecting them to smile back in return. I tried to talk to them in English. But I was surprised. My neighbours can't. So, everyday I spend hours reading a dictionary. But it's not enough. A week had past and a month had past until I decided to enter a Japanese language school. But entering the language school is not 100% relief because there is no English translation. Everything is in Japanese. So you have to try hard to understand very well what a teacher tell. I have to make a way and I said "I have to do something. I want to learn." But the process is very slow. I don't like to wait for a long time. So, what I did was I call up to the city hall. "I'd like to do any kind of volunteer work that I could be useful." So they asked me "Could you volunteer in the English summer class?" And I said "Yes!" So I went there for two weeks. And I made friends with the children, not parents because children attend. So these children ask me "Where do you live?" "Can we go in your house?" I said "Yes! I'm always there in the house. Come when you are free." So that starts, life became more beautiful. Before, I used to cry from morning because my husband is out, working. So it's hard to be left alone. It's hard to live in a foreign land without friends. And the door was open. It was a new life to me.

During my 6 month stay here in Japan, I was offered a job. It's doctor's assistant. It's different from a doctor's assistant job in America. In America, if you are offered a job, you can assist to a doctor. All you have to do is take the history of the patient, take vital signs, and check up a physical exam. The detail will be done by the attending physician himself. In Japan, when you are offered a job, an assistant physician, it's not assistant. It's like a helper. Helper! Like when you go in the morning, you have to clean, vacuum cleaning, to wipe windows, table, the doctor's table. I thought I'm going to take the histories. But no. My purpose is not to earn money. I want fulfillment. At least, I could use my intellect like that professional growth. But it was the other way around. Because it was

my friend who introduced me, I can not say "Give up." I have to go down to that very, very low level, cleaning a toilet, changing bed seats of the patients. Imagine my role in the Philippines! I tell the nurse "O.K. Take this." I just say my orders. But when I came here, it's other way around.

In the hospital, I made many friends with Japanese patients. They call me "Imerda, I'm going to check in the hospital. Will you be in the morning or in the afternoon?" I said "I'll be in the afternoon." She said "O.K. I'll go there in the afternoon." I was surprised the old women, "Obasan" were so warm. She is like a mother to me. She could feel what I could feel. She said "Ganbatte kudasai." And then she said "So you are a doctor in the Philippines. Why did you marry a Japanese? Why did you give up your profession? Mottainai." I said "A human life, men, we cannot take code for our own destiny. There's somebody up there who do something. Like when you are born, you have packed your life. You have to lead it." "Before," I said "I don't want to marry a foreigner. But here I am. I become a foreigner."

From the Shisui Medical Center, a news spread out in the community that there is an English personnel. So at last, my position went up. The doctor said "O.K. Imerda, don't clean anymore. Somebody will clean that. All you have to do is to deal with foreign patients because they are coming." So I have to take notes and I have to interview. But a problem is other foreigners don't speak English. They don't speak Japanese as well. So what do you, a language volunteer do? There is no way to communicate verbally. So what I did was to make eye contact. I look straight into their eyes. And I have to draw pictures. I always bring with me my note. I said "O.K. here's man's body. Where is the problem?" I touch. I hold the hand. "Doko? Where?" They know "Doko." So they will point "Itai?" or "Is it painful?" I asked. But she looked with a blank face. So how should I? So I have to act like "Unko suru" or "Mune itai" like this. So the patient understand. Sometimes it's funny. Really funny. I don't want to do it. But I have to do it for the benefits of the patients because they have to be treated.

Many foreign patients are not 100% satisfied when it comes to medical attendance. Not really communication problems but some doctors with holding information. Like the person has the right to know what is happening in his or her body. But more or less explanation that is been given "Mo daijobu desu", "Mondainai", "No problem" and that's all. And the medicines are being given. There are no names, no levels, just saying "Take this once or twice, three

料金割引

テレジョーズ



好み 4種類

0120-493019
NTT習志野支店

Ann
Ballet Classique



ピンクのサテンのトウシューズ

……女の子なら誰もが夢みるバレリーナ

その夢を実現させてみませんか？

大人の初心者も楽しくレッスンできます。

無料オープン・レッスン（ご予約下さい）

3月11日(土) 3月18日(土) 2時30分～

アン・バレエ・クラシック
0474-75-9582 京成実駅 徒歩5分

times a day." It's not explanation. What is it for? Is it 'antibiotics'? Is it 'anoretics' or 'pain livers'? They don't know.

In 1991, a year after, Mt. Pinatubo erupted. It was early in the morning. We were taking breakfast and my husband was reading a newspaper. My husband said "Oh, Imerda! Thousands of Philippino are dying there in the mountain. There is mount flows. And people don't know where to go." Then he said "They are needing volunteers, doctors, nurses to go to the sight who render the services." Because in the newspaper, it was written there. It was the Japan Foundation for Human Rights, Asia, who announced that they are accepting volunteers. And my husband said "You are a doctor. You are a Philippino. Why don't you go?" I said "I'm afraid of mount flows. I'm afraid to die. I'm just starting life now." So he said "If you are going a good part of pass, you are going to be safe." And I was surprised he's not a christian. But he has a courage. I said "Hantai desune. Naze watashi christian." I'm a christian. Why is a christian so afraid? And my husband is buddhist. He's not afraid. I said "O.K. I think about it." He said "You decide now." I said "Why now?" "Because this is only time we could go to Tokyo. It is a holiday," he said. It was Sunday. The acceptance of volunteers was open. Then he said "O.K. Dress up. Let's go." I said "Ah, giri-giri." And he said "No, you go. We go. I'll be with you." Telling me that he will be with me and supporting me, give me a courage. So I said "O.K. God, please help me."

So we were the second dispatch of volunteers coming from Japan. The materials brought to the sight, Mt. Pinatubo, were not enough. So we had to bring our own tools. I brought with me at least 4 bags. Too heavy. From the airport to the sight, it took about 14 to 15 hours. 14 to 15 hours! Too long. We went to the sight. And then when I reached the sight, I saw a charred baby back here. It's burn. "Yakedo." It's like a roasted chicken. The skin was disconnected. And no medicines. They used coconut oil, just point ointment. There is no antibiotics.

Joining the Foundation for the Human Right, Asia, Japan is a good experience for me because I learned a lot of things from Japanese doctors. I thought that after 2 or 3 times, going there and doing volunteer services, I also get tired and I said "I want to stop." But I can not stop. When there are people seeking help, you can not say "No". Especially, when you see they are really in need. Here in Japan, I receive phone calls as far as "Kyushu", "Nagoya", "Kyoto", where there are Philippinos in need of medical assistance. Because the problems are always communication. Though they can understand a little Japanese, a little English, they are not familiar with medical terms. If, for example, a Japanese doctor just talk medical terms, we don't explain it in details to the patient. You can not understand. The more foreigners, "Gaijin" can not understand.

Person need to have a sense, feeling. We feel the needs of other person. If you work for medical profession or work in a hospital, compassion is necessary. Not just "O.K. You take a medication. Take this three times a day." It's like "Tsumetai". Very cold. It is no feeling. 80% of patients coming to the hospital don't really have an organic disease. They are not really sick. It's 'psychosomatic'. What is 'psychosomatic'? Not really crazy. But there's a feeling of insecurity, a feeling of mourning. There is loneliness. You want somebody to talk to. So many foreigner feel this. Not just Philippinos. Any foreigner. It's like feeling homesickness. So people

who are unhappy, people who are sad, approach to illnesses because sense mechanism becomes weaker. Like when you are lonely, when you are sad, you don't have appetite, can not eat well. You don't have enough sleep. You want to work but you can not perform the job. It's not well done because you're not feeling good. So if I go to the hospital, I want relief. I want somebody like "Odajini ne". A kind words. Just kind words. That kind of touch. It's more than enough. Better than cups or tablets of medicines. It heals. Maybe some medical personnel or nurses, doctors, volunteers, we need to have that compassion. Compassion in action. Sometimes we also have our own problems. But even we are tired, even we feel angry or irritated, we can not frown. Sometimes we have to act. We have to smile. We have to be "Akaru", because you want your patients or the other people to be happy. It's a sacrifice? No. If you can see the person been cured, you find relief. It's a feeling of happiness. There is a happiness inside. There is a fulfillment. That is my view about happiness or fulfillment. So we have to have interest in people not just in ourselves. Like will you be happy if I have a diamond, a big house, I have everything, I can go anywhere around the world, I can eat anything I want? I see some people there dying. They don't have anything. But if I see those people suffering, I feel "Is this happiness? It just means enjoying life?" So, this leave me to do more volunteer services. I would be happy if people in the world are in peace, not killing each other like wars. We don't need to invade other people's country like what's happening now. So if people only learn to love, learn to care, learn to feel the other people's needs, we can share. We have a bread, we can share a little. I take more. At least I gave you one. It's O.K. We don't have to give a half. A person who has done a lot of services said "Serving others, we can serve ourselves like husband and wife relationship. If you are nice to your husband, serving him, he would be nice to you, too. He will serve you in return. It's a give and take relationship."

Every person dreams of success. Some people think success means being rich, living a peaceful life and not having any problems. Even when they grow old, other has dreams having a good job, earning a lot of money and being respected by many people. We think money, security and popularity are the same as success. We don't understand that true success is found in having our spiritual needs. True success is found not just in a material world. Also spiritual.

That's end of my talk. Thank you.

イメルダ・近藤さんのプロフィール

フィリピン出身。フィリピンにて6年間、小児科医として務め、5年前に日本人のご主人と結婚、来日。その後、医療関係の仕事をしながら、さまざまな団体で、語学ボランティアとして活躍されています。

当協会会員。また、当協会ボランティア通訳登録者。佐倉市在住。



ボランティア通訳・翻訳登録者募集

習志野市国際交流協会では、ボランティアで通訳や翻訳をお手伝いしてくださる方々を募っています。英語に限らず、どんな言語でも結構です。皆さんの語学力をさまざまな場で発揮してみませんか。

また、毎月第1、第3金曜日を「ボランティア通訳の日」として、市役所2階タスカルーサ資料室にてミーティングを行っています。

ぜひ、事務局までご連絡ください。

リンゴの気持でおむかえいたします

スーパー マーケット
オカヤ

京成実駅前通り 0474(76)8111(代)

口座振替で手間をかけずにお積み立て
積立定期ひまわり

津田沼支店

電話 0474-52-2111



ちばぎん

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

次回は台湾の歴史を…

葉山 彩華さん(津田沼在住)

葉山彩華さんは、台湾で結婚後すぐに歯科医のご主人と共に来日され、以後15年間成田に住まわれておりましたが、3年前に津田沼に移ってこられました。

来日されてからは、ご主人の日本の医師免許の取り直しや言葉の問題などご苦労も多かったようですが、着実に日本での生活基盤を築きあげてこられました。

葉山さんご夫婦には、3人のすてきなお嬢さんがいらっしゃいますが、ご夫婦ともとても教育熱心で、それぞれのお子さんにあった学校に入れておられ、津田沼へ住居を移されたのもお子さんの通学のためだそうです。

彩華さんのN.I.A.への入会は、日本語教室がきっかけとなったもので、この度の取材に応じていただきました。彩華さんへの取材時間は短時間ではありましたが、台湾にも方言があり、言葉によって出身地がわかること、台湾の歴史と中国との関係など熱心にお話を聞かせていただきました。

この取材が終わって数日後、彩華さんから私のところへ台湾の歴史資料が送られてきましたが、この会員紹介の枠が多ければ、ぜひ台湾の歴史なども皆さんへ伝えたかったくらいです。 (H・M)



○ご主人と

交流の場を求めて

藤井 亜希子さん(谷津在住)

大学で法學を専攻している藤井さんは2年前の春、大学のプログラムでアラバマ州立大学に短期留学しました。これがきっかけとなり、「様々な交流の場に参加できれば」と思い、N.I.A.に入会されたそうです。

留学した時のことを、「大学の施設がとても充実していて驚きました。マシンジム・テニスコート・室内プールなどがあり、エアロビクスもきちんとインストラクターの指導のもとにできます。そして何と言ってもこれらの施設は学生であれば無料で使用できるのが一番の魅力です。滞在中、午前は大学で勉強し、午後はフリーでした。大学生にボランティアで色々な場所を案内してもらったり、週末にホームステイをしたりで、あっという間に1ヶ月が過ぎてしまいました。」と話しながら、当時の日記を見せてくださいました。

初めての海外での生活は、驚きと感動に満ちたものようでした。

「マレーシアやインドネシアなどにも興味があるので、次はアジアの国々に行ってみたいと思います。」

優しいまなざしの彼女の内に秘められた情熱を感じられました。 (K・I)



●ホストファミリーと

友達作りをしませんか

松本 朋子さん(袖ヶ浦在住)

松本さんは、教育文化部会のスタッフとして、日本文化の紹介を通じて身近なところからの国際交流活動を進めています。「この活動を始めてから、日本人でも外国人でも、たくさんの人と知り合えて、とても楽しいです。」

昨年夏には姉妹都市タスカルーサからの高校生の引率者の、ホストファミリーを体験されました。「ホストファミリーは英語が話せなくても、日本のこと伝えようとする誠意があれば、誰でもできることだと思います。」コミュニケーションは、もっぱら単語と身ぶりで。

「身構えないで、自然体でいれば何とかなるもの。多くの人にやってほしいですね。」

松本さんはパッチワーク歴20年の名人で、お部屋にはタペストリー、ぬいぐるみなど手作りの品がいっぱい！ 公民館でも教えているそうです。

これから国際交流については、「色々な国の人と友達になりたいと思っている人には、外国語が話せなくても、ぜひ会員になって欲しいです。そして互いの国の習慣・風俗・料理等をもっと話し合っていきたいですね。」と、にこやかに語っておられました。 (Y・N)



○自作のタペストリーの前で

IEC 国際交流センター

英会話スクール

当スクールは、地域から日本を変える運動の一貫として英語教師を米国、カナダから招請しています。先生方を貴方の御家庭や友人に紹介し、日常生活からの国際化にお役立て下さい。

京成津田沼駅クレストホテル前
☎51-0104

祝
習志野市
市制40周年

“おもてなしの心”を込めた一クレストウェディングプラン

適用期間=平成6年4月1日～平成7年3月31日

クレストウェディングプラン

50名様 980,000円

土・日・祭日(大安・友引等に適用)

● 1名様追加料金16,000円

※料金は税・サービス料が含まれております。

ウェディングプラン ⑩ 大プレゼント

物語が集うく「コミュニティホテル」です。

ザ・クレストホテル津田沼では、この習志野の街で育

まれるさまざまな物語を、豊かにふくらませる「コミュニ

ティホテル」をめざしています。

●85の客室 ●3つのレストラン・ラウンジ

●10の大小宴会場



上記プランの「お問い合わせ」について
お問い合わせください。

ご予約・お問い合わせは
TEL (0474) 53-1201(直通)

ザ・クレストホテル
津田沼

(帝國ホテルグループ)

〒275 千葉県習志野市津田沼5-12-4

TEL (0474) 53-1111(代表)

京成・新京成津田沼駅前

コ・ラ・ム／新・東西南北見聞録／ところ変われば……

思い出のボリビア

黒沼 廣治（市川市在住）

南米のボリビアについては、昭和36年赴任以来昭和51年まで駐在し、その後も一昨年まで毎年長期出張していたので、思い出は尽きることがない。最近はよくテレビでペルーやボリビアの風俗が放映されているが、小生が赴任する頃にはまさに地球の果てに行くのではないかと思ったものである。

まずボリビアを概観してみよう。ボリビアは南米の中心にあり、国の西部一帯はアンデス山脈によってつくられたアルティプラーノと称する3,000mから4,000mに達する高度の高原とブラジルから続く東部の熱帯平野からなる対照的な地勢を形成している。最大の都市であり、政府所在地であるラ・パスは、海拔3,600mで、ラ・パス空港は海拔4,070mである。ボリビアの国土はおよそ日本の3倍であるが、人口はわずか600万人と言われる。この少ない人口の2/3がアンデス高原に住み、わずか1/3が広大な熱帯平原に住んでいる。アンデス高原地帯では鉱産物の产地として有名で、また大麦・じゃがいも・とうもろこしなどの農産物を産する。熱帯平原では、砂糖きびを始めとして通常熱帯地域に産するほとんどの農産物を産出するので、ボリビアの食生活は極めて豊かである。忘れてならないのは1950年頃熱帯地域のサンタクルス州に日本人が移住するということで、ボリビアと日本政府との間で、移住協定が調印され、先に移住していた沖縄県人と共に約5,000人の日本人が移住し、米・砂糖きび・綿花・大豆などの生産を上げ、さらに今は二世・三世が各界で活躍していることで

ある。ボリビアの人種構成は基本的には先住民族ともいべきアイマラ族・ケチュア族・グアラニ族とスペイン人であるが、ドイツやイタリアなどからの移住者も少なくない。公用語はスペイン語で相当田舎でもスペイン語が通じ、その点では初等教育が進んでいるといえよう。

ボリビア人の気質は明るく人なつっこく、すぐに友達になってくれる。ラテン圏共通の気質である。私が勤務した鉱山では500人を越すボリビア人従業員がいた。幹部クラスのボリビア人は家をラ・パスに持っていたので、土曜日にはラ・パスに帰った。私達も単調な合宿生活からの



●ワイニョの踊り



○ワイニョの踊り

現地の酒、シンガニ（ぶどうの蒸溜酒）とオレンジのジュースを混ぜたカクテルが出され、宴は佳境に入り音楽も求愛の表現を入れたクエーカ等に変わる。また一息入れ雑談するが、適度に酔も廻ってきて緊張して話していたスペイン語もしさか滑らかになる。やがて音楽も明るい東部の熱帯地域のバイレシートやカルナバリストなどに変わり、全員輪になつて踊る。こんな時は本当に異境にいる淋しさを忘れてしまう。しかし節度がある。パーティを終わりにしたい時には音楽を変える。夜も更けてゆくと、音楽は次第に静かなタンゴやボレロに変わる。そうすると出席者はそろそろ帰る時間だなと察し、私達は次々と深謝して帰るのである。こうした心暖まるもてなしにより、私達とボリビア人の友情は自然に深まっていった。仕事を通じての外国人との交流であったが、これも国際交流のるべき姿であったのではないかと思う。ボリビア人達からは、技術的な面は別として社交的な面では学ぶところが少なくなかった。今ボリビアは長い革命の時代に別れを告げ、内戦のない民主国家として成長しようとしている。国際協力事業団を通じての日本政府からの援助も多く、内陸国家というハンディはあるが、序々に発展することを祈ってやまない。



津田沼駅前 総合住宅展示場

毎月第4曜日 住宅金融公庫相談会実施
J R 津田沼駅 南口前

センターハウス 電 (74)1792

随時学校見学実施中

学校法人 三 横 学 園

専門学校 千葉スクール・オブ・ビジネス

コンピュータ専門学校 ☎ 0474(51)6481

専門学校 千葉薬事専門学校

薬学系専門学校 ☎ 0474(51)4611

AIR MAIL 定期便

from LA

生ハムメロンで思うこと

鳥越 恵子

(ロサンゼルス在住)

「ギョッ 確か頼んだの一人分だよね。」「Excuse me これ何人分ですか。」「もちろん一人分です。」先日外食した際にウェイターと息子の間で交わされた会話である。前菜に生ハムメロンを注文した彼の前に、何と分厚くカットされたメロンが4切れと、そのメロンの表面をスッポリ覆う幾枚もの生ハムが、大皿でドンと運ばれて来たのである。アメリカに5年近く暮らし、レストランの料理の多さにはさほど驚かなくなっているはずだが、この時ばかりは久々に驚かせてもらった。超庶民の我等としては、生ハムメロンにはやはり上品に美しく盛り付けられて登場して欲しかったと思う。それが大胆に潔ぎよく、羞らいもなく現われたのだ。必然的にその食べられ方まで変わってしまうのはいたし方あるまい。あこがれの生ハムメロンも「誰か手伝う気ない?」と、まるで大盛チャーハンと同じような扱いを受けて、息子の胃の中へと消えていったのである。

そこで私は、アメリカに旅行あるいは仕事や勉強で訪れ、レストランに入った時は、席に案内される前にさりげなくあくまでもさりげなく、周りのテーブルの料理の量を確かめておくことをお勧めする。そして、メニューに前菜、主菜と分



●街角のレストラン風景

かれて書かれても余り気にしないことだ。私達日本人は律儀な性格で、ついつい型にこだわりがちだが、自分の懐具合、お腹の具合、両方と相談しながら注文すれば良いと思う。食事が終わるとデザートの注文を聞かれるだろう。しかし、これもまたお腹が一杯だったら素直にそう言えれば良いし、私のようにお腹が一杯でもデザートは別という人には、連れの人と相談して分けあって食べるという方法もある。シェアしたいと言えれば喜んで注文に応じてくれるはずだ。大事な事を忘れてしまった。料理が残ってしまった時のことだ。残してきてしまった料理に未練を残す、なんて経験は誰でも一度や二度あるだろう。この国ではそんな思いをしなくて済む。どんな少量でも客が持ち帰りたいと言えれば、ファミリーレストランからかなり高級なレストランに至る

まで、気持ち良く要求を聞き入れてくれる。旅行者なのでフォークやナイフも入れてほしいと言えば、プラスチックのものをもらえる。決ってはずかしいことではない。周りを見回すと美しく着飾った紳士・淑女が、持ち帰りの用器を手に店を出て行く姿を目にすることができるだろう。楽しく、周りに迷惑を掛けずに食事することさえ心掛ければ良い訳で、この国の人々の気取りのないオープンな性格と、合理的なこの習慣を私は結構気に入っている。

息子など、昨夏日本に戻った際入ったレストランで、マニュアル通りとしか思えないウェイトレスの機械的なおじぎにうんざりしていた。日本に住んでいた時はさほど感じなかったのだが、果してあれがサービスと呼べるだろうかと、私もふと疑問を感じたものである。

AIR MAIL 臨時便/阪神大震災余話 in L.A.

日本の地震はロサンゼルスでも連日のように各メディアで伝えられています。日本人の中には家が崩壊したりで、急遽帰国した方もいます。エアラインや旅行会社には、すぐ日本に戻りたい、という旅行客で職員が対応に追われたようです。今回は臨時便として、第一報直後のこちらでの動きをいくつかご紹介します。昨年のロサンゼルス地震で活躍した消防署長は日本領事館に電話で、救済活動などのノウハウはいつでも提供すると申し出ました。テレビはニュースと同時にすぐ義援金を募り、企業は水や食料の援助を申し出、100人を越すボランティアが集まりました。人々は自分たちにできるこ

とをすぐに実行に移してくれます。一方、関西関係のたくさんの方々がいるにもかかわらず、領事館では電話での情報提供は夜10時まで。24時間のサービス体制が組めないものでしょうか。

また、娘が通うパサバナの補習校では、アメリカ人を夫にもつ担任の先生がご主人のお父さんから寄付の申し出を受けたそうです。それが職員会議に諮られ、単独ではできない、他と足並みを揃えないと…と言われ、「お父さんに何と説明しよう。はずかしい。」と私におっしゃいました。もちろん、こちらの日本企業や日本人は自分たちにできる協力をしていることも付け加えなければなりません。

旅を通して豊かな心を

—  **名鉄観光** — 

名鉄観光サービス株式会社

千葉支店 〒260

千葉市中央区富士見2-19-7 富士見LKビル

TEL 043-225-3731

FAX 043-225-3734

住宅・店舗・内装・設計・施工



看板・ネオン・広告企画・編集・デザイン・印刷

☎ 0474-79-3177

株式会社 ウィット / 〒275 習志野市大久保1-26-22

1995年度語学交流講座受講生募集

「外国語を勉強してみたいけど、なかなか機会がなくて…。」
という人はいませんか。

習志野市国際交流協会では、講師と受講生、そして受講生同

士の交流を通じて楽しく語学を学び、身近な国際交流へのきっかけを目的とする語学交流講座を新年度も開講します。

皆さんも一緒に外国語を学んでみませんか。

講座日程表 '95 春期(4月~7月)

講座名	クラス	講 師	曜日・時間	会 場	回数	受講費	開講日	終講日	休 講 日	レベル	備考
英語	A	マイケル・シェワルツ	金曜日 19:30~21:00	谷津公民館	11	7600(6600)	4/21	7/7	5/5	初級	新規
	B	アンドリア・カーン	火曜日 13:15~14:45	袖ヶ浦公民館	12	8200(7200)	4/25	7/11		初級	新規
	C	マイケル・シェワルツ	日曜日 10:00~11:30	大久保公民館	9	6400(5400)	4/30	7/9	5/21, 6/18	初級	新規
	D	マイケル・シェワルツ	木曜日 19:30~21:00	大久保公民館	7	5800(4800)	4/27	7/6	5/4, 5/18, 6/15, 6/29	初級	新規
	E	マイケル・シェワルツ	土曜日 19:00~20:30	新習志野公民館	11	7600(6600)	4/22	7/8	4/29	初級	新規
フランス語	A	坂田喜子	木曜日 19:00~20:30	袖ヶ浦公民館	12	8200(7200)	4/20	7/13	5/4	初級	新規
ドイツ語	A	斎藤テレシア	土曜日 15:30~17:00	袖ヶ浦公民館	12	8200(7200)	4/22	7/15	4/29	中級	継続
イタリア語	A	藤村アルベルティーナ	木曜日 13:30~15:00	菊田公民館	11	7600(6600)	4/20	7/13	5/4, 6/29	中級	継続
スペイン語	A	三輪イルマ	土曜日 13:00~14:30	谷津公民館	12	8200(7200)	4/22	7/15	4/29	初級	新規
	B	三輪イルマ	火曜日 10:30~12:00	菊田公民館	11	7600(6600)	4/25	7/11	5/30	中級	継続
ロシア語	A	島田イリーナ	土曜日 15:00~16:30	谷津公民館	12	8200(7200)	4/22	7/15	4/29	初級	新規
中国語	A	大迫勝弘	木曜日 19:00~20:30	谷津公民館	12	8200(7200)	4/20	7/13	5/4	中級	継続
	B	大迫勝弘	土曜日 13:30~15:00	菊田公民館	9	6400(5400)	4/22	7/15	4/29, 5/6, 6/3, 7/1	初級	新規
外国人のための日本語	A	鈴木忍	金曜日 10:00~11:30	谷津公民館	12	8200(7200)	4/21	7/14	5/5	初中級	継続
	B	岡本和子	金曜日 19:00~20:30	谷津公民館	12	8200(7200)	4/21	7/14	5/5	入門	新規
	C	岡本和子	水曜日 19:00~20:30	谷津公民館	11	7600(6600)	4/26	7/12	5/3	初中級	継続

◆各講座は英語と日本語Bを除いて、新規クラスは2年間、継続クラスは1年間続けます。(英語の全クラスと日本語Bは1年間で終了。)

年間(春期…4月~7月、秋期…9月~12月、冬期…1月~3月)を受講可能な方は、ご応募ください。なお秋・冬期の日程は決定次第お知らせします。また、英語については、より多くの方に受講していただくため、以前に受講経験のある方は応募できません。

◆定員は各講座30名で(日本語は20名)

定員を越えた場合は抽選とします。また、一定の人数に達しない講座は開講しない場合もあります。

◆受講料には、テキスト代は含まれません。受講料欄()内の金額は、習志野市国際交流協会会員の受講料です。

◆継続クラスは、欠員分の募集となり、新規の方も受講可能ですが、講座内容が途中からとなり、それに伴う実力を要します。

◆申し込みは、希望講座・クラス名(1講座1通)、氏名(ふりがな)、住所、電話、生年月日を明記し、受取人の住所、氏名を記入した返信用封筒(80円切手貼付)を同封して、3月17日(必着)までに習志野市国際交流協会事務局に郵送してください。

〒275 習志野市鷺沼1-1-1

習志野市役所総務課内

習志野市国際交流協会事務局

電話(51)1151 内線 244

一人、一人に目が届くための人数制限と手作りを15年間続けています。見かけではなく、実質を大切にしています。

小1生~高3生まで

アクト
ACTセミナー

小学生 6名 中・高校生 8名以内/1クラス
中学入試受験生5名中4名合格(渋谷幕張中など、7年度)
大学入試受験生11名中 9名(大学8名、短大1名)合格
何万人いる塾ではありませんので、この合格率はすごいのです。

習志野市東習志野4-8-21 ☎0474-77-6315

本場中國の味

中国料理 東魁樓 本館

千葉県船橋市本町4-36-17
TEL 0474(22)3529・3186
11時30分~21時(営業時間)

今年もよろしく 会員のつどい

8回を迎えた「会員のつどい」が、1月21日(土)クロストホテルで開かれました。

今回は、在住外国人グループ「アミーゴス」の皆さんをお迎えし、メキシコ・ペルー・コロンビア・コスタリカ出身の方々による民族性豊かな踊りを披露していただき、最後の曲では会場の参加者皆さんが一つになって楽しいリズムに体をゆだね、息を弾ませていました。

また、恒例のくじ引きも行なわれ、年女の第1回姉妹都市派遣生、加藤さんの手もとが動くたびに歓声とため息が会場をつつみました。

例年多くの方が参加され、地域の交流の輪が、ますます大きく広がっていくのを感じるひとときでした。



寒さをふきとばせ

もちつき大会

2月19日(日)、教育文化部会主催による「日本文化セミナー もちつき大会」が谷津公民館で行なわれました。

(社)習志野青年会議所の青空教室で収穫したもち米を毎年寄付していただき、行なわれているこのもちつき大会。家庭ではあまり見られなくなった臼と杵を使

い、薪でもち米を蒸し上げます。

なれない手つきで杵をふりおろす人、同じくなれない手つきでこね取りをする人。それぞれが大苦戦の末、白くふっくらとしたもちがつきあがりました。

出来あがったものは、大根おろしやアンコ、お雑煮でと参加した人々のお腹におさまりました。

当日お手伝いをしてくださった方々、本当にありがとうございました。



ご協力ありがとうございました ユニセフ外国コイン募金

青少年部会では、昨年度に引き続いでUNICEF(国連児童基金)外国コイン募金に協力してきました。

昨年4月から市内各公民館などにも募金箱の設置をお願いし、2月4日(土)に青少年部会員により集計作業を行なったところ、総重量で30kgのコインと紙幣が皆様方の暖かい善意とともに寄せられていました。

これらのコイン・紙幣は、3月中旬に坪井俊宣部会長により(財)日本ユニセフ協会に届け、発展途上国の子ども達の命と健康を守るために役立てられます。

青少年部会では、今後も継続的にこの募金活動に取り組んでまいります。

皆さんのお手元で眠っている外国コインがありましたら、ご協力をお願いいた

します。



●青少年部会員による集計作業

姉妹都市タスカルーサ市の あたたかい歓迎に大感激!!

昨年10月6日(木)から10月14日(金)までの間、姉妹都市市民訪問団を結成し、タスカルーサ市を訪問してきました。

この市民訪問団は、産業観光部会が1年がかりで企画してきたもので、習志野市制施行40周年記念として、アトランタ1泊、タスカルーサ3泊、オーランド3泊の訪問スケジュールでNIAスクウェア、広報習志野で募集したところ、総勢29名で実施されました。企画・運営に携わった一員として報告いたします。

9月21日(水)、市役所において林会長、荒木市長を始めとする方々から激励の言葉を賜ると同時に荒木市長並びに林会長より、タスカルーサ市デュポン市長と姉妹都市委員会キューバスン委員長宛のメッセージを託され、結団の意を新たにした市民訪問団29名でした。

10月6日(木)、デルタ航空で成田発。ワクワクとした愉快感で機上の人となり、機中スチュワーデスと英語で「試し会話」などで英会話の調整をしていた人もおり、ほほえましい情景でした。

ポートランドを経由しアトランタ空港に無事到着。この日は、アメリカで一番背の高いウエスティン・ピーチツリープ

STAGE CONSTRUCTION

習志野市と 共に歩いた40年

製作・施工
不二装備工業株式会社
Tel 0474-77-2323代
千葉県習志野市大久保4-3-8

■舞台設備部
舞台幕類・緞帳・暗幕
舞台吊物設備
舞台照明設備
舞台照明調光設備
■インテリア部
ショップ、デザイン
内装、カーテン、カーペット

企画・設計
F&S
株式会社
Tel 0474-79-3330代
千葉県習志野市大久保4-3-8

富原税務会計事務所

税理士
行政書士
社会保険労務士

富原 啓
アキラ

〒275 習志野市東習志野6丁目9番4号
電話 0474 (72) 4619
FAX 0474 (74) 1356

ラザホテルに宿泊。オリンピック施設見学は時間の都合で次回の宿題としました。

10月7日(金)、アトランタを発し、バーミングハム空港に到着しました。いよいよ本番開始です。

空港にはタスカルーサ市のバイロン・フィンドリー助役、姉妹都市コーディネーターのジュディ・ニコルソンさん、通訳のリリー・ミスラさんが出迎えに来てくださいました。

空港ロビーでは歓迎式が行なわれ、私達が持参した荒木市長及び林会長からのメッセージをお渡し、宿泊先であるウインフレイホテルへと向いました。

午後は、タスカルーサ市内のアラバマ大学校内を見学し、大学購買部でショッピングを楽しみました。行程中は終始助役のバイロンさんが同行してくださいまして、感謝の気持で一杯です。

また、購買部では前任のコーディネーターのジューンさんともお会いすることができました。

この夜ホテルでの夕食にこのジューンさんとご主人をお招きし、長年にわたる姉妹都市コーディネーターとしてご努力いただいた功績に対し、習志野市より記念品を贈呈いたしました。ジューンさんも感涙にむせび喜んでいただきました。そして、夜がふけるまで、メンバーと話しがはずみ、つくる時を知らない友情が続きました。

10月8日(土)、バイロン助役の家にホ



○お世話をしたジュディさん、バイロン助役、リリーさん

ームビジットさせていただきました。

バーミングハムとタスカルーサの途中に位置した静寂な雰囲気のニューイングランド方式の垣根のない緑の芝生の住宅街で、1軒の家5~6部屋すべてをオープンにして29名をご招待くださいました。

日本の間取りより広いことと、親日家らしく窓枠に着物の帯が飾ってあったり吃驚したり感心させられたり、また部屋正面のケースには「ならしの錦」が置かれてあり話題に花を咲かせていました。

午後は、アラバマ大学学長公邸庭にてホームカミングデイで帰郷したアラバマ



大学同窓会のパーティに合流しました。会場に向う途中、大学生や市民によるパレードに遭遇し、その規模の大きさと華やかさに見とれたり驚ろかされたり。

その後は、製紙会社所有の美術品を充分に鑑賞させていただきました。

10月9日(日)、あいにくの雨天となりましたが、タンネヒル州立公園に行き、鉄鋼博物館を見学し南北戦争の一端を少し現地勉強しました。

夜はタスカルーサ市内のシェラトンキャプストンインで、相互の交流パーティが催されました。タスカルーサ側からは約80名のお客様が参加され、姉妹都市委員長キューバスンさんと団長との間で記念品の交換が行われるなど、アルコールの度合に応じて楽しく語り合う友愛なパーティでした。

10月10日(月)、午前10時50分にバーミ



●見学先で全員一緒に

ングハム空港を出発する準備に追われ、空港に到着してみるとロビーにはバイロン助役とジュディさん、リリーさんがお見送りに来てくださいました。

そこでお別れのあいさつと、当方よりは今回のバイロンさん並びに皆様のご親切と愛情あふれたおもてなしに厚く厚くお礼を申し上げました。当方団員の中にはバイロンさんと頬を寄せ合ってお別れの涙を流してくださった方もおられ、本当に立案者としては「この親善企画が成功した!」と男泣きに泣きたい感動を覚えました。バイロン助役さん!本当にありがとうございました。

タスカルーサを飛び立ってからは、オーランドに向い、ディズニーワールド内のスワンに宿泊、日本人の新婚さんの多いのに驚かされました。

11日、12日には、ディズニーワールドマジックキングダムとユニバーサルスタジオを見学し、童心に返って笑いこけたり、あるいはヒッチコックの映画のトリックの裏面を見て感心したりと非常に印象の深い経験となりました。

最後に珍重なことを記しますと、オーランド市の「らん月」という料亭にて、フロリダ産アリゲーター(鰐)の肉料理を賞味いたしました。

多分一生の記念になると思います。

今回の訪問団に参加された方々、そして関係者の方々、本当にありがとうございました。(産業観光部会長 鷹栖 明)

国際交流のことなら何でもご相談下さい

近畿日本ツーリスト株式会社
千葉支店

〒260 千葉市中央区中央2-5-1
千葉中央ツインビル2号館 2階
電話 043-227-9451(代)
FAX 043-222-9770

研数学館

夢を心で育む予備校

案内書無料送付・問合せ先 ☎0120-12-8009

津田沼校 〒275 千葉県習志野市谷津1-15-33 ☎0474(78)8000
東京校 〒101 東京都千代田区西神田2-8-15 ☎03(3261)8000
春日部校 〒344 埼玉県春日部市柏塙1-5 ☎048(752)9000

めざす。もうひとつ高い合格。

春季講習(高1・2・3・卒生対象)

3/20(月)~4/5(水) 3期制:各5日間

■総合学習コース

志望系統別・レベル別に多数設置

■重点学習コース対応単科クラス

科目別・分野別・レベル別に多数設置

新学期(高1・2・3・卒生対象)

■大学受験総合科(卒業生対象)

■単科総合指導コース(卒業生対象)

■現役総合科(高3生対象)

■総合学習コース(高1・2・3・卒生対象)

■教科別単科クラス(高1・2・3・卒生対象)

★申込み受付中!★

Let's チャレンジ/ザ・英文クロスワードパズルNo.29/プレゼント付!

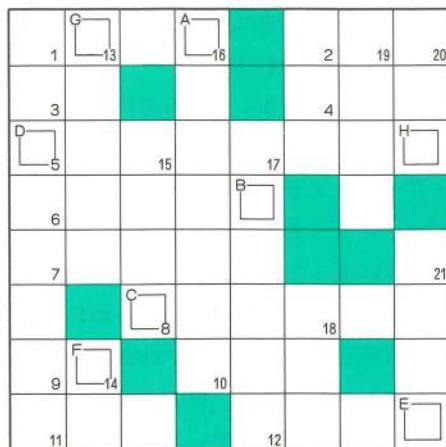
〈ACROSS〉

- The way of expressing one's choice from among the offered possibilities with a piece of paper or raising a hand.
- _____ to = owing to
- Prefix. "Opposite of" or "not".
- Plural form of be.
- Series of planned activities to gain a particular object, especially in politics or business.
- Tiller
- The taxable amount.
- Isolate
- Chemical symbol for silicon.
- Interjection. Cry out in surprise.
- Any part of the expanse of salt water that surrounds the continents.
- Unclean matter (eg. dust, mud).

〈DOWN〉

- A female victor.
- A wet nurse.
- An Indian in Nebraska.
- That is.
- A unit of money (one half of farthing).
- Take a plane.
- Join, unite (by a political agreement).
- One of a pair of long, narrow strips of wood, plastic, or metal, strapped to the boots, for moving over snow.
- Push or drive something or somebody.
- Even
- keep, kept, _____

〈出題者〉 御園生 銀(産業観光部会員)



〈応募事項〉

◆クロスを解いたあと、A～Hの文字をつなげて、できたことばが解答です。

◆ハガキに解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、また本誌の感想等を書いて送って下さい。4月17日必着。

◆正解者の中から抽選で2名の方に、アラバマ大学オリジナルカーシェイドを差し上げます。当選者は、6月上旬発行予定の本誌第30号で発表。

◆宛先:〒275 習志野市鷺沼1-1-1 習志野市役所総務課内「NIAスクウェア」編集部。たくさんのご応募お待ちしています。



前回の解答と当選者の発表

おめでとうございます！

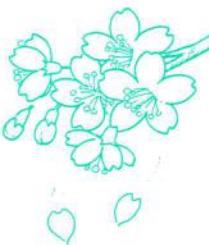
〈解答〉 ATHLETICS

H	E	R	O	C	U	T
I		O	N	E	R	E
R	O	S	E	Y	E	N
O	L	Y	M	P	I	A
S	D		A	I	N	T
I	E		N	E	G	W
M	N	O	E	A	H	
A	N	I	E	L	L	O

〈当選者〉 だんだんと日が長くなり、暖かくなってきたこの季節、新しい出発と出会いへの期待に胸を膨らませている人も多いのではないでしょうか。忙しい季節でもありますが、多くの方のご応募をお待ちしています。

今回も厳正な抽選の結果、次の方が当選されましたので賞品をお送りします。

堀切 花菜さん (会社員)



編集部だより / 本誌へのご意見、ご感想をお寄せください。

姉妹都市へ高校生を派遣

本協会では、姉妹都市タスカルーサ市との交流事業の一環として、国際性豊かな青少年の育成を目指し、青少年の派遣・受け入れを隔年で行っています。

今年の夏は、市内の高校生をタスカルーサ市に派遣し、ホームステイを通しての海外生活体験や、姉妹都市の人々との交流を図る予定です。

募集は本年4月の「広報習志野」で行う予定です。多くの高校生の方のご応募をお待ちしています。



コ・ラ・ムしてみませんか

新・東西南北見聞録への投稿を歓迎しています。国際交流に関する、ご自分やご家族の体験談を約850字にまとめて、思い出の写真とともににお送りください。

また、会員紹介への登場も大歓迎です。自薦他薦を問いません。

お待ちしております。

広告に関する問合せは

本誌は、発行部数20,000部、会員はもとより、国内外の関係機関に配布されています。本誌にご協賛いただける広告主を募集中です。

編集アラカルト

- 阪神・淡路大震災で死者5,000人以上、地震の恐ろしさを感じました。(M・小林)
- わが家のベランダのささやかなバラ園にもたしかな春の息吹。(M・小森)
- 姉妹都市も増えるよう、交流の場が広がりそうです。(H・松野)
- 国際理解とボランティア活動は、子どもの時からの教育が大切。N.I.A.は内から変わる心が…。外国人スタッフが欲しい!(Y・宇井)
- 阪神大震災の義援金の行方を明確に!(H・三輪)
- 激動の冬をのりこえ、人々の心に暖い春がおとずれますように。(Y・中村)
- 何事も日常頃からの備えが大切と痛感させられる今日この頃です。(K・井上)

NIA スクウェア・第29号

発行・1995年3月1日/発行責任者・林 安次
編集責任者・小林 実/企画構成・小森 雅夫
編集・習志野市国際交流協会 総務部 会
〒275習志野市鷺沼1-1-1習志野市役所総務課内
電話(0474) 51-1151 内線244